ottobock.

17AD100 足継手 ネクスギア タンゴ

短下肢装具の製作とモジュールの取り付け

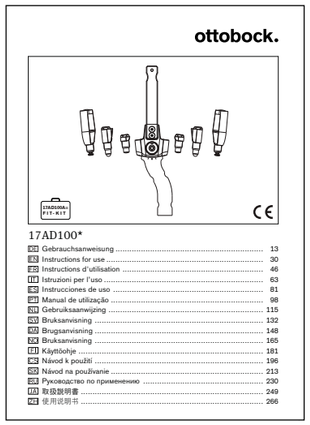
テクニカルインフォメーション 5.2.4

ネクスギア タンゴ梱包内容

ネクスギア タンゴには、以下のものが含まれております。

① IFU 製品取扱説明書
② 補足資料
③ ベースピース
④ ラミネーションダミーカバー
⑤ 軸受ワッシャー 一式

①



②

③

④

⑤

6種類の厚みのものが2枚ずつ封入

ベースピースについて（上記部品③）

ベースピースは5サイズあり、適応支柱に合わせたサイズ表記をしています。

適応体重を確認の上、内外側両側使用・内側もしくは外側の片側使用を選択してください。

発注品番	適応支柱	素材	最大適応体重	
			片側使用	両側使用
17AD100=10 17AD100=10-T	10 mm	ステンレス製 チタン製	15 kg	25 kg
17AD100=12 17AD100=12-T	12 mm	ステンレス製 チタン製	20 kg	40 kg
17AD100=14 17AD100=14-T	14 mm	ステンレス製 チタン製	50 kg	80 kg
17AD100=16 17AD100=16-T	16 mm	ステンレス製 チタン製	85 kg	120 kg
17AD100=20 17AD100=20-T	20 mm	ステンレス製 チタン製	110 kg	160 kg

ネクスギア タンゴを用い短下肢装具を製作するには3～5ページ記載の部品が別途必要になります。

あぶみ

ネクスギア タンゴ専用のあぶみです。ベースピースのサイズに合わせて選択してください。

発注品番	適応 ベースピース
17SF100=OS-10	17AD100=10 17AD100=10-T
17SF100=OS-12	17AD100=12 17AD100=12-T
17SF100=OS-14	17AD100=14 17AD100=14-T
17SF100=OS-16	17AD100=16 17AD100=16-T
17SF100=OS-20	17AD100=20 17AD100=20-T

モジュラー支柱 チタン

ラミネーション製下肢装具を製作するのに適している支柱です。ベースピースのサイズに合わせて選択してください。

発注品番	適応 ベースピース
17LS3=10	17AD100=10
17LS3=10-T	17AD100=10-T
17LS3=12	17AD100=12
17LS3=12-T	17AD100=12-T
17LS3=14	17AD100=14
17LS3=14-T	17AD100=14-T
17LS3=16	17AD100=16
17LS3=16-T	17AD100=16-T
17LS3=20	17AD100=20
17LS3=20-T	17AD100=20-T

ラミネーションダミー

ネクスギア タンゴ専用の金属ダミーです。

あぶみ、支柱と適合するように作られており、ラミネーション作業がしやすくなります。

ベースピースのサイズに合わせて選択してください。

発注品番	適応 ベースピース
17AD100A=DY-10	17AD100=10 17AD100=10-T
17AD100A=DY-12	17AD100=12 17AD100=12-T
17AD100A=DY-14	17AD100=14 17AD100=14-T
17AD100A=DY-16	17AD100=16 17AD100=16-T
17AD100A=DY-20	17AD100=20 17AD100=20-T

マウンティングアダプター

ネクスギア タンゴに使用する各モジュールを取り付けたり、外したりする際に必要となります。

トルクスレンチと接続し使用します。

モジュールパーツのサイズに合わせて選択してください。

発注品番	適応 モジュールパーツ
17AD100A=MA-10	17AD100A=HS-10 17AD100A=LS-10 17AD100A=AS-10
17AD100A=MA-12	17AD100A=HS-12 17AD100A=LS-12 17AD100A=AS-12
17AD100A=MA-14	17AD100A=HS-14 17AD100A=LS-14 17AD100A=AS-14
17AD100A=MA-20	17AD100A=HS-16 17AD100A=LS-16 17AD100A=AS-16 17AD100A=HS-20 17AD100A=LS-20 17AD100A=AS-20

モジュールパーツ

以下3種類のモジュールパーツから使用者に適したものを選択し、ベースピースの前後2か所に取り付けます。
取り付けの際にはマウンティングアダプターが必要です。

ストップモジュール

底背屈を制限することができます。
ベースピースのサイズに合わせて選択してください。

発注品番
17AD100A=AS-10
17AD100A=AS-12
17AD100A=AS-14
17AD100A=AS-16
17AD100A=AS-20

スプリングモジュール

内蔵するスプリングを圧縮し、エネルギーを放出することで底背屈のサポートをすることができます。
ベースピースのサイズに合わせて選択してください。

発注品番
17AD100A=LS-10
17AD100A=LS-12
17AD100A=LS-14
17AD100A=LS-16
17AD100A=LS-20

リアクションモジュール

スタティックアライメント調整用のダミーが梱包されています。
ダミーをリアクションスプリングに交換することで、スプリングによるサポートが得られます。
ベースピースのサイズに合わせて選択してください。

発注品番	最大適応体重	
	片側使用	両側使用
17AD100A=HS-10	15 kg	25 kg
17AD100A=HS-12	20 kg	40 kg
17AD100A=HS-14	50 kg	80 kg
17AD100A=HS-16	85 kg	120 kg
17AD100A=HS-20	110 kg	160 kg

リアクションスプリング

リアクションスプリングを使用することで、スプリングモジュールよりも強い底背屈のサポートが得られます。
リアクションスプリングには2種類あります。
リアクションモジュールのサイズに合わせて選択してください。

発注品番	形状	強度	カラー	適応リアクションモジュール
17AD100A=HS-12-1		ストロング	青	17AD100A=HS-10 17AD100A=HS-12
17AD100A=HS-14-1				17AD100A=HS-14
17AD100A=HS-20-1				17AD100A=HS-16 17AD100A=HS-20
17AD100A=HS-12-2		エクストラストロング	黄	17AD100A=HS-10 17AD100A=HS-12
17AD100A=HS-14-2				17AD100A=HS-14
17AD100A=HS-20-2				17AD100A=HS-16 17AD100A=HS-20

アライメントアダプタースリーブ

陰性モデルの関節軸に設置し陽性モデルを製作します。のちにアライメントインサートを差し込みラミネーションする事で継手軸がずれることなく装具を製作する事ができます。

発注品番	入数
743Y48	4個

アライメントインサート

装具継手と接続し、陽性モデルに埋め込まれたアライメントアダプタースリーブに差し込み使用します。

- 継手の種類によりサイズ1～4を選択する
- ネクスギア タンゴの場合はサイズ4を使用
- 内外側両側使用の場合は2個必要

発注品番	形状	サイズ	入数
743Y56=1		1	1 個
743Y56=2		2	
743Y56=3		3	
743Y56=4		4	

1 はじめに

このテクニカルインフォメーションは、ラミネーション技術を使用した短下肢装具の製作をサポートするものです。
この資料は、義肢装具士などの様々な材料、機械、工具の取り扱いについて訓練を受けている方を対象としています。
また、本紙に記載されていることは全てを網羅しているわけではなく、製品に付属している取扱説明書も併せてご参照ください。

1.1 フローチャート

全体の流れを以下のフローチャートに示します。

陽性モデルの準備

↓

ラミネーションダミー、支柱、あぶみの配置

↓

陽性モデルの補強

↓

陽性モデルをラミネーションし、装具を仕上げる

↓

モジュールの設置

2 準備

効果的に作業を行うためには、以下のような準備が必要です。

・道具や材料の収集
・準備のための作業
　各自で陽性モデルを作成する。
　アライメントアダプターを陽性モデルに配置する。
　陽性モデルにストッキネット等をかぶせる。

工具	
品名	**品番**
トルクレンチ	710D20
710D20用ビット	710Y19
トルクスレンチセット	709S530
トルクスビットセット	710Y25
ネクスギアタンゴFIT KIT	17AD100A=FIT-KIT

材料	
品名	**品番**
装具用関節アライメント調整キット	743R6=*
PVC側面補強材	17Y106
ペルロンストッキネット	623T3=*
PVAバッグ	99B81
カーボンファイバーシート	616G12
パスタシル	85H11=*

材料	
品名	**品番**
カーボンファイバーグラス 帯ひも	616H11=*
カーボンファイバー ストッキネット	616G15=*
ダクロンフェルト	616G6
ポリエチレン粘着テープ	627B4
プラスタバンド	636K8
PVC両面テープ	616F10*
C-オルソクリル注型用樹脂	617H55
硬化剤 アクリル樹脂用	617P37=0.150
タルカムパウダー	639A1=1

3 手順

3.1 陽性モデルの準備

アライメントインサート（743Y56）をアライメントアダプタースリーブ（743Y48）内にセットします。

アライメントインサートの上のストッキネット（623T3=*）に接着剤を塗布します。

接着剤が乾いたらペルロンストッキネットに切り込みを入れて、アライメントアダプタースリーブ上のペルロンストッキネットを取り除きます。

3.2 ラミネーションダミー、支柱、あぶみの配置

支柱は、ラミネーションダミーに付属の皿頭ネジ2本で取り付けます。

ベアリングブッシュをあぶみに残したまま、あぶみをラミネーションダミーカバーに挿入します。

ラミネーションダミーカバーをラミネーションダミーにはめ込み、付属のネジを通します。支柱にあぶみとの接続の挿入部（曲げ加工しない部分）をマーキングします。

ラミネーションダミーから支柱とあぶみを取り外し、曲げ加工してください。

注意：

支柱とあぶみの挿入部を曲げ加工しないでください。

インフォメーション：

あぶみは、ラミネート加工されたダミーカバーの形状により、ニュートラルの位置に固定されています。

あぶみがニュートラルに配置されていることで、装具のジョイントにおける背屈または底屈の最大可動域を可能にします。

あぶみを曲げ加工し、足底にかからない高さまで短くします。

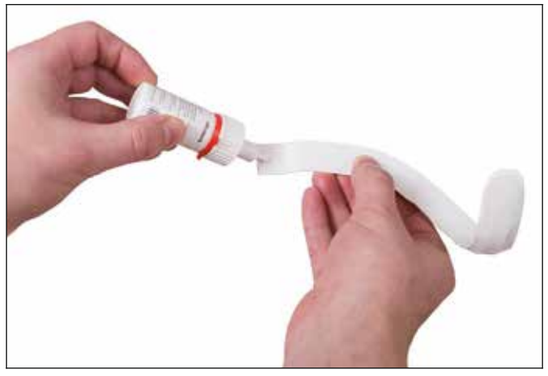
ラミネーションダミー、支柱、あぶみを付属のネジでアライメントインサート（743Y56）に固定します

支柱/あぶみと陽性モデルの間のクリアランスを確認します。最小の距離は約**2～3mm**です。

支柱とあぶみのバリを取ります。

PVC補強材（17Y106）で支持面を補強します。

PVC補強材をヒートガンで加熱し、形を整えます。



支柱に接着する面に接着剤を塗布します。

PVC補強材（17Y106）を支柱に接着します。接着面をしっかりと押してください。

3.3 補強

支柱とクランプ

インフォメーション：

補強する前に、支柱とあぶみの表面を荒らし、脱脂洗浄剤を使って洗浄します。

カーボンファイバーストッキネット（616G15）であぶみを補強し、ストッキネットをあぶみから **約 5cm** 長く残します。

装具の構造および患者の要件に応じて、あぶみの上にストッキネットを 1～3 層かぶせます。

カーボンファイバーストッキネットとあぶみがフィットするように、あぶみの長さに合わせて、補強材をワックスのかかっていない糸で巻きつけます。長く残したカーボンファイバーストッキネットには巻かないでください。

支柱とPVC補強材（17Y106）をカーボンファイバーストッキネットで補強し、ワックスのかかっていない糸で巻き付けます。

以下の部品にワックスを塗り、樹脂の付着を防ぎます。

接合部

- ラミネーションダミー の下部
- 支柱/あぶみの挿入部分
- ネジ

分離していたパーツを接続します。

支持部

アライメントインサート（743Y56）のシャープなエッジをなだらかにするためにプラスタバンド（636K8）を使用します。

浸したPVAバッグ（99B81）を陽性モデルにかぶせて吸引します。

ダミーをねじ込む際にPVAバッグ（99B81）が破れないように、アライメントインサート（743Y56）の部分にポリエチレン粘着テープ（627B4）を貼ります。

ペルロンストッキネット（623T3=*）を1層かぶせます。

アライメントインサート（743Y56）の上のペルロンストッキネット（623T3=*）に接着剤を塗布します。

接着剤が乾いたら、ペルロンストッキネットに切り込みを入れ、アライメントインサートのネジ山を露出させます。

注意：

以降の作業でカーボンには接着テープやスプレー接着剤はできるだけ使わず、積層加工時に繊維が完全に浸されるようにしてください。

カーボンファイバーグラス帯ひも（616H11）をペルロンストッキネット（623T3=*）に両面テープやスプレー接着剤で固定します。

- 踵からロールオーバーエッジまで、全面的な補強としてカーボンファイバーグラス帯ひもを**A-P**方向に1層貼り付ける。
- 踵からロールオーバーエッジまで、**M-L**方向に全面的な補強としてカーボンファイバーグラス帯ひもを1層貼り付ける。

補強は足関節ダミー部分にかからないようにしてください。

カーボンファイバーグラス帯ひも（616H11）を使用して、支柱と支持面を含む装具の耐荷重部分を補強します。

カーボンファイバーストッキネット（616G15）（**幅5cm**）を支柱に沿って2枚重ねて貼ります。

空気漏れを防ぐためにプラスタバンド（636K8）を使用し、アライメントインサート（743Y56）上をドーナツ状に覆います。

ネジ山のPVAをカットします。

ダミーに付属しているネジを使って補強した部品をアライメントインサート（743Y56）に固定します。

カーボンファイバーストッキネット（616G15）の端を扇形に広げます。

扇形に広げたファイバーをカーボンファイバーグラス帯ひも（616H11）で補強材に固定します。

カーボンファイバーストッキネット（616G15）の端を扇形に広げ、カーボンファイバーグラス帯ひも（616H11）で固定します。

陽性モデルと支柱/あぶみの間の空洞をダクロンフェルト（616G6）で埋めます。

陽性モデルのすべてのネジや突起をパスタシル（85H11）でシールし、なだらかにします。

陽性モデルの上にペルロンストッキネット（623T3=）を1層かぶせます。

脛骨の支持面の部分にカーボンファイバーシート（616G12）を1枚貼ります。

オプション：
患者の身体的・機能的状態に応じて、補強層を追加します。

オプション：

足の長軸方向の部品を作ります。

・2枚のカーボンファイバーシート（616G12）を前足部サイズに合わせてカットする（ファイバーの方向は45°）。

・カットしたカーボンファイバーシートを前足部に貼る。

インフォメーション：

この例では、柔軟性のある前足部を製作しています。

カーボンファイバーグラス帯ひも（616H11）を、踵からふみ返し部分に向けて、**A-P**と**M-L**方向に配置します。

カーボンファイバーストッキネット（616G15）（**5cm幅**）を支柱に沿って貼ります。

オプション：

最終層としてベルロンストッキネット（623T3=）を1層、装飾布を1層、もしくは、カーボンファイバーシート（616G12）を1層使用します。

そのための型紙を用意します。切り出した型紙を最終層の材料に転写し、切り出します。

切り出した材料をモデルに固定します。

モデルの上に薄いストッキネットかぶせます。

インフォメーション：

ストッキネットは、PVAバッグをモデルにかぶせる際に、カーボンファイバーシートの層が剥がれることを防ぎます。また、ストッキネットを使用することで、注型用樹脂がより早く補強材に行き渡るようになります。

浸したPVAバッグ（99B81）をかぶせ、吸引します。

3.4 ラミネーション加工と仕上げ

吸引して、PVAバッグ（99B81）に空気漏れがないか確認します。

樹脂と硬化剤を混合します。

注意：

硬化時の過熱を避けるため、硬化剤の量は1.5%以下にしてください。

ラミネーション作業を行います。

ラミネーションが終わり完全に硬化した後、装具のトリミングラインをマークします。

ナイフを使ってラミネーションダミーカバーと支柱の挿入部を露出させます。

ネジからパスタシル（85H11=）を外します。

ラミネーションダミーのネジと、ダミーに支柱を止めているネジを外します。

ラミネーションダミーカバーを取り外します。

ラミネーションダミーカバーと一緒にベアリングブッシュを取り外した場合は、ベアリングブッシュをあぶみに再装着します。

*ベアリングブッシュの紛失にご注意ください。

プラスチックカッターを使用して、マークされたトリミングラインに沿って作製されたシェル本体をカットし、石膏モデルから取り外します。

注意：

万力で製品を挟む際には顎受けを使用するなどして、製品に傷がつかないようにご注意ください。

ラミネーションダミーの下部から支柱を取り外します。

ラミネーションダミーの形状は、装具ジョイントの全可動域の動きを可能にする形状を作り出します。

3.5 装具ジョイントの取り付け

あぶみ用ベアリングブッシュがあぶみに収まっているか確認し、無い場合はあぶみ用ベアリングブッシュを取り付けます。

インフォメーション：

装具ジョイントや個々のモジュールを取り付ける際に、下腿部のコンポーネントを取り付ける必要はありません。

適切な軸受ワッシャーを用いて装具ジョイントを取り付けます。

- 同じ厚さの 2 枚の軸受ワッシャーをあぶみの内側と外側に配置し、装具ジョイントをスライドさせる。
- 内側、外側方向に遊びがある場合は、より厚い軸受ワッシャーを使用する。

継手用ネジと継手用ナットを挿入し、トルクスレンチで締め付けます。

ベースピース	10	12	14	16	20
トルクスレンチ	T20	T20	T25	T30	T30
対応トルク値	3 Nm	3 Nm	5 Nm	8 Nm	8 Nm

3.6 スプリングモジュールの取り付け

カバーの上からネジ山付きスリーブを通し、カバーの平らな面がベースピースに向くようにネジ込み、固定します。

注意：

万力で製品を挟む際には顎受けを使用するなどして、製品に傷がつかないようにご注意ください。

マウンティングアダプターをネジ山付きスリーブにセットし、対応するトルク値で締め付けます。

ベースピース	10	12	14	16	20
マウンティングアダプター	10	12	14	20	20
トルクスレンチ	T20	T20	T25	T30	T30
対応トルク値	5 Nm	6 Nm	6 Nm	8 Nm	8 Nm

ボールをネジ山付きスリーブに挿入します。

コイルバネ（もしくは圧縮バネ）を伸展補助バネ用ハウジングに入れ、ネジ山付きスリーブにセットします。

ネジ山付きスリーブに止めネジをねじ込み、トルクスレンチで締め付けます。

3.7 ストップモジュールの取り付け

カバーの上からネジ山付きスリーブを通し、カバーの平らな面がベースピースに向くようにねじ込み、固定します。

注意：

万力で製品を挟む際には、製品に傷がつかないようにご注意ください。

マウンティングアダプターをネジ山付きスリーブにセットし、対応するトルク値で締め付けます。

ベースピース	10	12	14	16	20
マウンティングアダプター	10	12	14	20	20
トルクスレンチ	T20	T20	T25	T30	T30
対応トルク値	5 Nm	6 Nm	6 Nm	8 Nm	8 Nm

ストップスリーブのカーブが、あぶみの方を向くようにして、ストップスリーブをネジ山付きスリーブに挿入します。

ネジ山付きスリーブに止めネジをねじ込み、任意の位置にセットします。

3.8 リアクションモジュールの取り付け

インフォメーション：

ネクスギアタンゴのリアクションモジュールは、カバーに取り付けた状態でお届けします。モジュールを装具ジョイントに取り付ける前に、個々のコンポーネントに分解する必要があります。

スプリングボルトからカバーキャップを取り外します。

*小さいパーツを紛失しないようにご注意ください。

モジュールをカバーから押し出します。

スプリングボルトを緩め、スプリングダミーをスプリングホルダーから外します。

スペーサーワッシャーを取り外します。

スプリングホルダーをサポートエレメントから外します。

インフォメーション：

ロッド棒にはネジロックが付いているため、調整時には回しにくくなっています。ロッド棒を頻繁に調整するとネジロックの効果が著しく低下する恐れがありますので注意してください。必要に応じて調整後はネジロックを再塗布してください。

オプション：

マウンティングアダプター17AD100A=MA*をトルクスレンチのレバー延長として使用します。

ベアリングスリーブとロッド棒の付いたスプリングプランジャーをサポートエレメントから引き出します。

マウンティングアダプターをサポートエレメントに置き、カバーを介してスライドさせます。

カバーの平らな面をベースピースにセットします。

サポートエレメントを対応するトルク値で締め付けます。

その後、マウンティングアダプターを取り外します。

ベースピース	10	12	14	16	20
マウンティングアダプター	10	12	14	20	20
トルクスレンチ	T20	T20	T25	T30	T30
対応トルク値	5 Nm	6 Nm	6 Nm	8 Nm	8 Nm

スプリングプランジャーをベアリングスリーブとロッド棒と一緒に、サポートエレメントのカバーに挿入します。

注意：

適切な位置とスムーズな動きを確認しながらねじ込んでください。

トルクスレンチを使って、スプリングホルダーをサポートエレメントの内ねじにねじ込みます。

ビットエクステンション付きのトルクレンチをスプリングホルダーにセットして、締め付けます。規定のトルクを守ってください。

ベースピース	10	12	14	16	20
トルクスレンチ	T25	T25	T25	T40	T40
対応トルク値	4 Nm	4 Nm	4 Nm	6 Nm	6 Nm

スプリングホルダーにスペーサーワッシャーを配置します。

スプリングダミーをモジュールに挿入します。

スプリングボルトをモジュールに置き、トルクスレンチでスプリングダミーがモジュールに遊びなく収まるまで締め付けます。

3.9 リアクションモジュール - スタティックアライメント

装具を患者に装着します。

膝関節軸用ゲージ（743A8）を使用して、装具膝関節軸をマークします。

トルクスレンチをスプリングボルトに通して、止める位置を調整します。

→制限角度調整

ロッド棒がネジの中で動きやすいように、手で下腿を支えモジュールにテンションがかからないようにします。

インフォメーション：
リアクションモジュールを2個使用する場合は、装具のジョイントがA-P方向に遊びがなくなるまで調整してください。

L.A.S.A.R.ポスチャーを使用して装具のスタティックアライメントを確認します。

3.10 リアクションモジュール - ダイナミックアライメント

ダイナミックアライメント調整の場合は、トルクスレンチでスプリングボルトを緩め、スプリングダミーをリアクションスプリングに交換します。

スプリングボルトを取り付けます。

トルクスレンチを使ってスプリングボルトをカバーと同じ高さにねじ込みます。

ダイナミック･トライアル･フィッティングの実施。

- 装具を患者に装着する。
- L.A.S.A.R.ポスチャーを使用して、患者に装着した装具の矢状面のアライメントをチェックする。
- スプリングボルトを使用してリアクションスプリングの望ましいテンションを設定する。
- 装具を装着したまま患者を歩かせる。

→スプリングの強さ調整

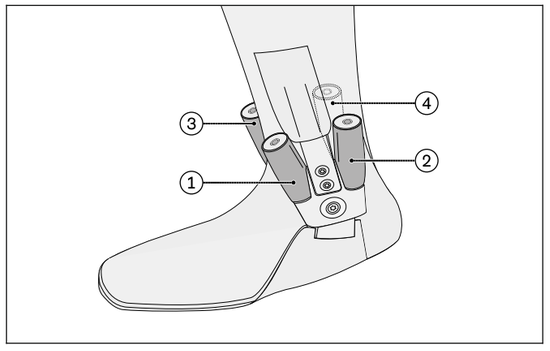
立脚後期（ターミナルスタンス）での膝の伸展の程度を確認してください。

必要に応じて、スプリングを再調整してください。

3.11 リアクションモジュール - ダイナミックアライメント

装具の両側にリアクションモジュールを使用する場合は、調整順序に注意してください。内側と外側で向かい合っているリアクションモジュールのストッパーとバネの張力は、等しく調整しなければなりません。リアクションモジュール 1 と 3、および 2 と 4を同じように調整することで、装具の変形や損傷を防ぐことができます。

背屈と底屈の調整



3.8“ リアクションモジュールの取り付け “と3.9 “ リアクションモジュール - スタティックアライメント “ に記載されている手順に従ってください。

リアクションモジュールの止める位置は、調整順序に従って設定されます。リアクションモジュールを使用しない場合は、対応する説明を参照する必要はありません。

前提条件 装具が患者に装着されている。

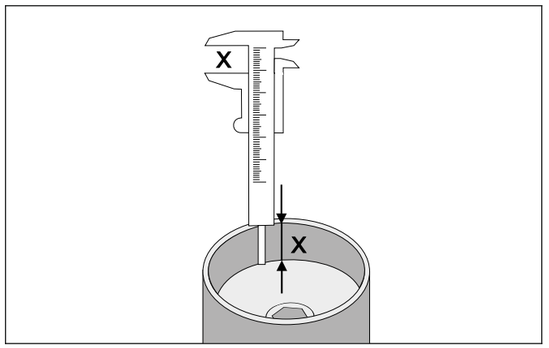
前提条件 すべてのリアクションモジュールにはスプリングダミーが取り付けられている。

- リアクションモジュール 1 の止める位置を調整する（26 ページ参照）。
- 装具ジョイントの前後方向の遊びがなくなるまで、リアクションモジュール 2 の止める位置を調整する。
- スプリングボルトを使用して、リアクションスプリングの望ましいテンションを設定する。
- 装具を装着したまま患者を歩かせる。
- リアクションモジュール 1 と 2 の調整が終わり、リアクションモジュール 3 を調整する時は、リアクションモジュール 1 のスプリングボルトを緩めてから、リアクションモジュール 3 の調整をする。

手順

- リアクションモジュール 3 の止める位置を調整する。リアクションモジュール 1 がある場合は、リアクションモジュール 1 と同じ位置に調整する。
- ここで、先に緩めておいたリアクションモジュール1 のスプリングボルトを締め直す。
- リアクションモジュール 4 を調整する場合、リアクションモジュール 2 のスプリングボルトを緩める。
- 装具のジョイントの前後方向の遊びがなくなるまで、リアクションモジュール 4 のストップを調整する。リアクションモジュール 2 がある場合は、リアクションモジュール 2 と同じ位置に調整する。
- ここで、リアクションモジュール 2 の前に緩めたスプリングボルトを再び締める。
- ネジ穴が使われていない場合（モジュールを使わない場合）は、ダミーキャップを固定する。
- 必要に応じて、スタティックアライメントの設定を調整し、手順を繰り返す。

スプリングテンションの調整



“リアクションモジュール - ダイナミックアライメント”で説明した手順に従ってください。

リアクションモジュールのスプリングテンションは、以下の調整手順に従って設定します。リアクションモジュールを使用しない場合は、対応する説明を参照する必要はありません。

前提条件 装具が患者に装着されている。

前提条件 すべてのリアクションモジュールにリアクションスプリングが取り付けられている。

- リアクションモジュール 1 のスプリングボルトのスプリングテンションを調整する。
- リアクションモジュール 2 のスプリングボルトのスプリングテンションを調整する。
- リアクションモジュール 1 と 2 のカバーにあるスプリングボルトのねじ込み深さをキャリパーで測定し、記録する。
- リアクションモジュール 3 のスプリングボルトのスプリングテンションを調整する。リアクションモジュール 1 が装着されている場合は、リアクションモジュール 1 の測定値に合わせてリアクションモジュール 3 を調整する。
- リアクションモジュール 4 のスプリングボルトのスプリングテンションを調整する。リアクションモジュール2が装着されている場合は、リアクションモジュール 2 の測定値に合わせてリアクションモジュール 4 を調整する。
- ネジ穴が使われていない場合（モジュールを使わない場合）は、ダミーキャップを固定する。
- 装具を装着して患者を歩かせる。

必要に応じて、調整順序を守りながら、スプリングを再調整する。

お問合わせ先

オットーボック・ジャパン株式会社　www.ottobock.com/ja-jp
〒105-0012　東京都港区芝大門1-9-9 野村不動産芝大門ビル4F
TEL. 03-6403-1061（代表）　FAX. 03-6435-8082

製品の取扱いにつきましては、義肢装具製作所までお問合せください。

- 本テクニカルインフォメーションは義肢装具士などの医療従事者向けです。
- 予告なく製品の仕様やデザインが変更になることがあります。
- 本誌の写真と実際の製品とでは、色などに違いがある場合がありますのであらかじめご了承ください。
- 本誌の内容は 2021 年 11 月現在のものです。

© Ottobock Japan K.K. O-20211207・646T524=en-02-1812 Technical Information